

西部電、精密ニーズ対応

放電加工機品ぞろえ刷新

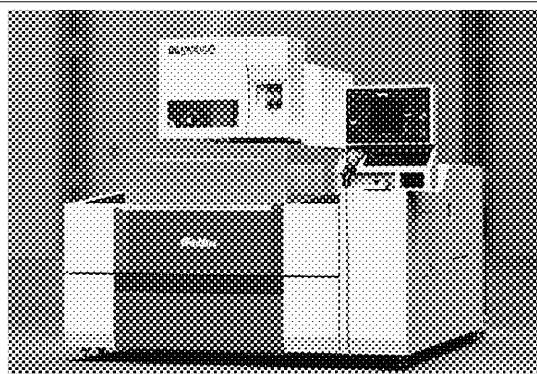
【福岡】西部電機は水仕様ワイヤ放電加工機のラインアップを刷新する。加工精度が最も高いクラスに新たな2機種を投入して最上位機種を拡充する。また一部機種で軸移動範囲を広げた新製品を発売する。半導体分野などで高まる高精度ニーズに対応するとともに加工対象物（ワーク）の大型化に対応する。

市場投入するのはピッチ加工精度が $\pm 10\mu\text{m}$ （マイクロは10万分の1）クラスの「M50UP」シリーズと「M35UP」。M50UPは軸移動範囲が $500\text{mm} \times 400\text{mm} \times 310\text{mm}$ 、ピッチ加工精度が $\pm 3\mu\text{m}$ のシリーズで発売するのは「M50HP」と「M35HP」。同シリーズの従来機種「M50B」「M35B」の精度が $\pm 2\mu\text{m}$ のシ

リーズ機種をベースに設計を見直して開発した。軸移動範囲の一部延長も実現する。剛性を高めるなどして高精度と軸移動延長を可能にし、部品の共通化などで価格を抑えた。

に比べ一部軸移動範囲を 50mm 延長した。新製品は11月の第31回日本国際工作機械見本市（JIMTOF2022）

関連業界など向けワイヤ放電加工機の需要増に対応するため、新工場の新設計画を進めている。



②に出展し、受注を始める。

西部電機は1972年にコンピュータ制御（CNC）ワイヤ放電加工機を開発し50年の実績がある。現在、半導体